



▲時習館の創設者 三木勉

西区の教育の発祥地

宮の沢の教育、いまむかし。

時習館
「学んで時にこれを習う」

明治五年（一八七二年）八月に学制が發布され、近代的な学校制度がつけられる以前に、札幌にはすでに三つの学校があったことを「存じでしようか。三つの学校とは、資生館（現在の資生館小学校）、善俗堂（現在の白石小学校）、そして時習館（現在の手稲東小学校）です。」

中でも、時習館は札幌地方の私設の学校形態で最も古いもので、手稲開拓功労者の一人である三木勉の手によって開かれました。

三木勉は北海道に集団移住した元仙台白石藩士たちのリーダーとして、明治五年一月に現在の宮の沢（当時は発寒）に入植。その数は四十七戸、二百四十一人に上りました。

移住者の子弟の教育が重要と考えた三木勉は、有志と共にシラカバの木を皮を剥いて屋根をふき、カヤで

周りを囲って小屋を建築。サクラの皮で「時習館」と門標を掲げ、自ら教育に当たりました。時習館の名は「学んで時ニコレヲ習フ」という論語の一節から引用したものです。

三木勉の教育は、読書、習字、算数の学習を主としていましたが、この中でも特に読書を通じて、道徳の大切さを教えることに力を注ぎました。また、当時の計算はそろばんで行うのが主流で、多くの寺子屋でも



▲時習館の模型（手稲東小学校所蔵）

そろばんを教えていたのですが、三木勉は筆算を取り入れるなど進んだ教育を行い、高く評価されました。

その評判を聞いて近隣の地域からも多くの子弟が通ったとされています。

開拓使判官 松本十郎の感動

当時、開拓使判官の松本十郎が地方視察の際に、時習館という珍しい文字が目が留まり授業を見学しました。松本十郎は、そこで行われていた三木勉の熱心な授業を見て大いに感動し、一本の掛け軸を時習館に贈りました。掛け軸には、武士が農業に励む絵と詩に加え、松本十郎自身の手によって「勉メヨヤ勉メヨヤ手稲ノ秀生、詩ヲ空シウスル勿レ」と激励の詩が書き添えられました。三木勉は非常に感激し、いっそう子どもたちや村人の教育に力を入れたといえます。

時習館に贈られたこの掛け軸は、

村人の宝とされ、現在は手稲記念館（西町南21）に所蔵されています。

時習館の記念碑

時習館創設から九十五年目の昭和四十二年（一九六七年）、手稲町と札幌市との合併を前に、時習館ゆかりの地に「時習館記念碑」が建てられました。三木勉の功績をたたえ、時習館の存在を後世に伝えるものとして、現在も中の川公園（西町南19）に、その姿を見ることが出来ます。



▲時習館記念碑（西町南19 中の川公園内）

（参考文献など）新札幌市史、手稲町史、明治・札幌の群像、さっぽろ文庫、歴史の街西区